

■書 ■籍 ■紹 ■介

日本の医療 制度と政策

島崎謙治 著

A5 判 448 頁 定価 5,040 円(税込) 東京大学出版会

2011 年 4 月 ISBN978-4-13-051133-9

少子高齢化や医療の進歩により医療費は増加する一方、経済の低迷が続くなかで、日本の医療制度は変革の岐路に立たされている。本書では、国民皆保険制度や民間セクター中心の供給体制など、日本の医療の構造を歴史分析と国際比較により浮き彫りにし、制度と政策の将来を展望する。

著者は、もと行政官で研究者に転じた後も厚生労働省に属し、現在は大学で政策研究に携わる。医療政策の専門学術書でありながら平明・簡潔な文章は、一般

社会人や学生にもわかりやすく読み応えがある。

〈おもな目次〉序章 問題の所在と分析視角／1 章 医療制度の基盤形成期／2 章 医療制度の確立・拡張期／3 章 医療制度の変革期／4 章 医療制度・政策の国際比較／5 章 米国の医療制度改革／6 章 スウェーデンの医療制度改革と日本への示唆／7 章 医療保険制度の基本問題／8 章 各医療保険制度の構造と政策課題／9 章 医療供給制度の構造と改革の方向性／10 章 医療供給の改革手法／終章 総括

